

早稲田大学における入試の現状と改革の方向性について

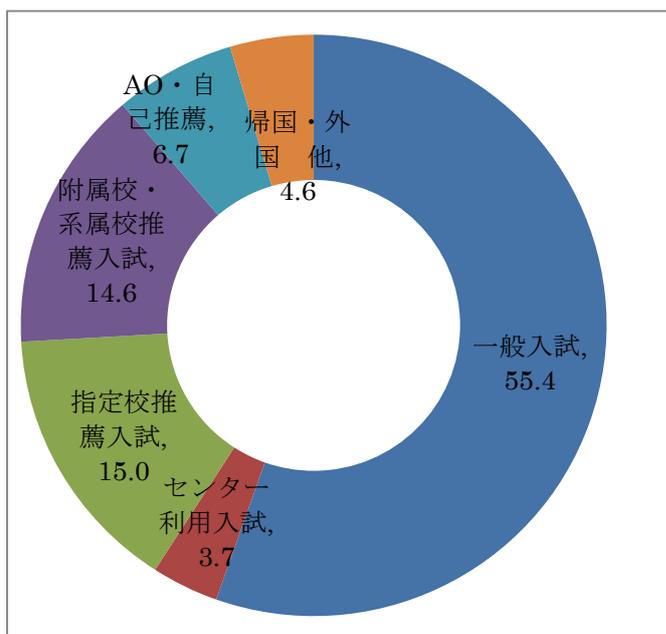
1. 早稲田大学における入試の現状について

(1) 各種入試の導入状況（2014（平成 26）年度）

	一般	センター 利用	自己 推薦	A O	指定 校推 薦	附属 系属 推薦	帰国 生	外国 学生	その他
政治経済学部	●	●		●	●	●	※ 1	●	社会人入試
法学部	●	●			●	●	●	●	
文化構想学部	●	●			●	●	●	●	
文学部	●	●			●	●	●	●	
教育学部	●		●			●	●	●	
商学部	●	●			●	●	●	●	
基幹理工学部	●			●	●	●	●	●	
創造理工学部	●			●	●	●	●	●	
先進理工学部	●			●	●	●	●	●	
社会科学部	●	●	●			●	●	●	
人間科学部	●	●			●	●	●	●	e スクール入試
スポーツ科学部	●	●	●	●		●	●	●	スポーツ推薦入試 社会人入試
国際教養学部	●	●		●	●	●	※ 1	※ 1	

※1 AO 入試の一環として実施。

(2) 入学者に占める各種入試の割合



・2014（平成 26）年度 4 月入学と 9 月入学の合計。

※1 年次に入学する計 9950 名
（通信教育課程は除く）

・一般入試・センター利用入試で約 6 割、多様な入試で約 4 割

2. 多様な入試に対する評価

(1)入学後の成績（GPAによる評価）

- ・入学後の GPA が最も高い入試区分が「AO 入試」である。（特に国際教養学部「AO 入試」は極めて成績が良い。） 次いで GPA が高い入学区分が「指定校推薦」である。

(2)入試による学生層の違い

- ・「AO 入試」では、受験学部を第一志望であることを出願要件として課しており、目的意識や意欲の高い者が出願している。（特に政治経済学部の「AO 入試」は中退率が際立って低い。）
- ・「指定校推薦」・「センター利用入試」では、地方在住の学生の割合が一般入試より高い。
- ・「自己推薦入試」は、高校内で一定の高い学力を備えた者に対して、高校生活での教科外活動等を評価して判定を行っており、「+αの個性」を持つ学生が出願している。
- ・「附属校・系属校推薦」では、受験勉強にとらわれず、大学入学前から早稲田大学の建学の精神を礎に据えた特色ある教育を受けた者が進学している。
（例：高等学院では第二外国語、本庄高等学院では卒業論文が必修となっている 等）
- ・「帰国生入試」「外国学生入試」では、多様な教育・文化的背景を持つ学生が進学している。



日本および世界の各地域からバランスよく多様な学生が入学し勉学に励む場の実現へ

(3)多様な入試制度を運営する上での課題

- ・出題・採点・面接等を年間複数回実施する必要がある。（教員の負担が増える。特に、入試問題の出題と直結する専門分野の教員への負担が集中する傾向がある。）
- ・特に「AO 入試」「自己推薦入試」等では出願書類が多様であり評価に手間がかかる。また広報活動、出願処理、合格発表、入学手続等が年間を通してある。（職員の負担が増える。）
- ・客観的な評価の担保が難しい。（従来の筆記試験のような1点刻みの評価ができないものについて、独自に評価尺度を設定して客観的な評価をすることは経験の蓄積が必要である。）
- ・受験生や保護者が合否判定結果に納得しない可能性もある。

3. 今後の方向性

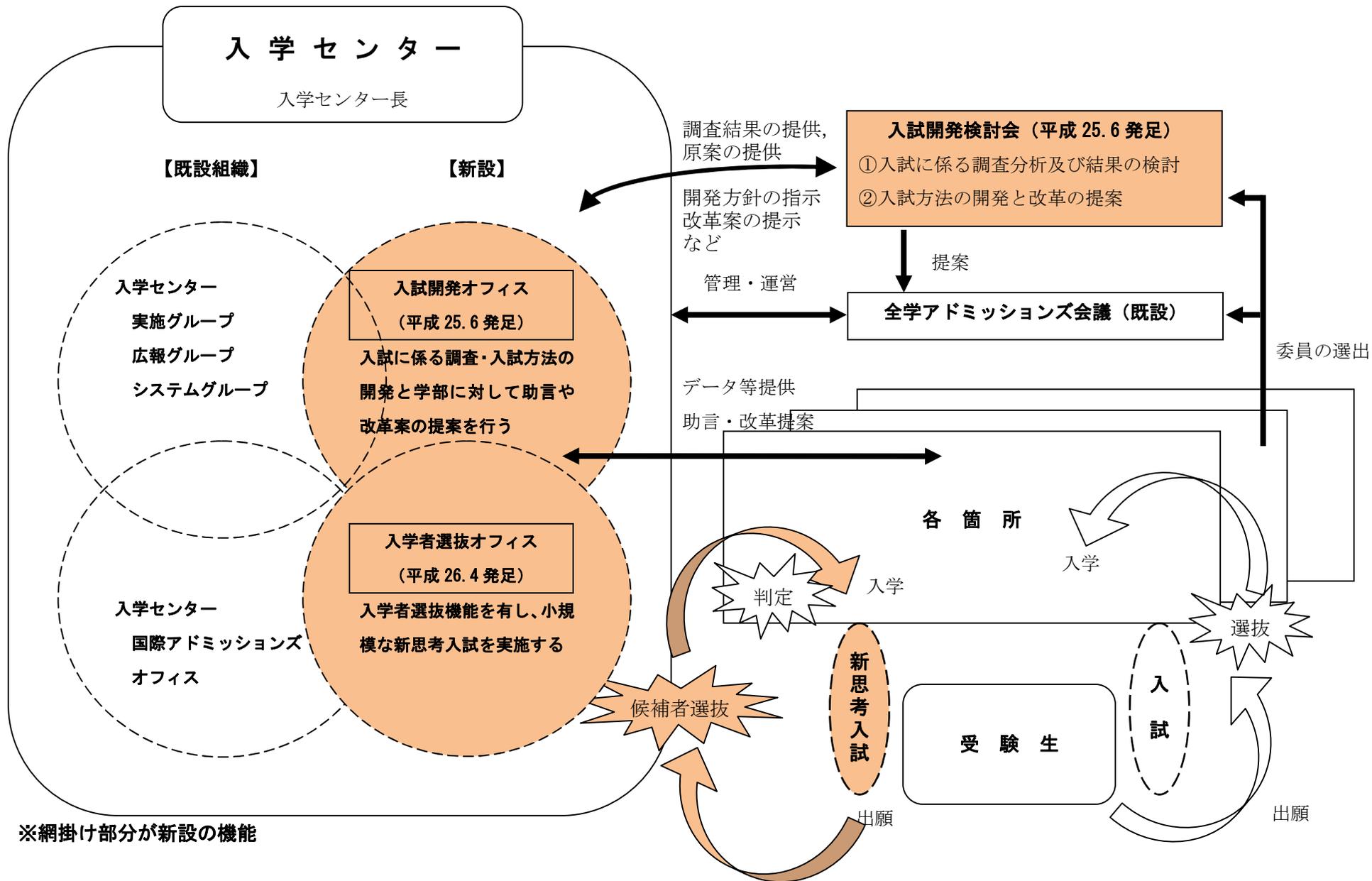
(1)Waseda Vision 150

- ・本学が創立 150 周年を迎える 2032 年に向けた Visio の策定し、推進している。13 の核心戦略とそれを実現するための具体的なプロジェクトを推進している。

(2)核心戦略「入試制度の抜本的改革」による改革の推進

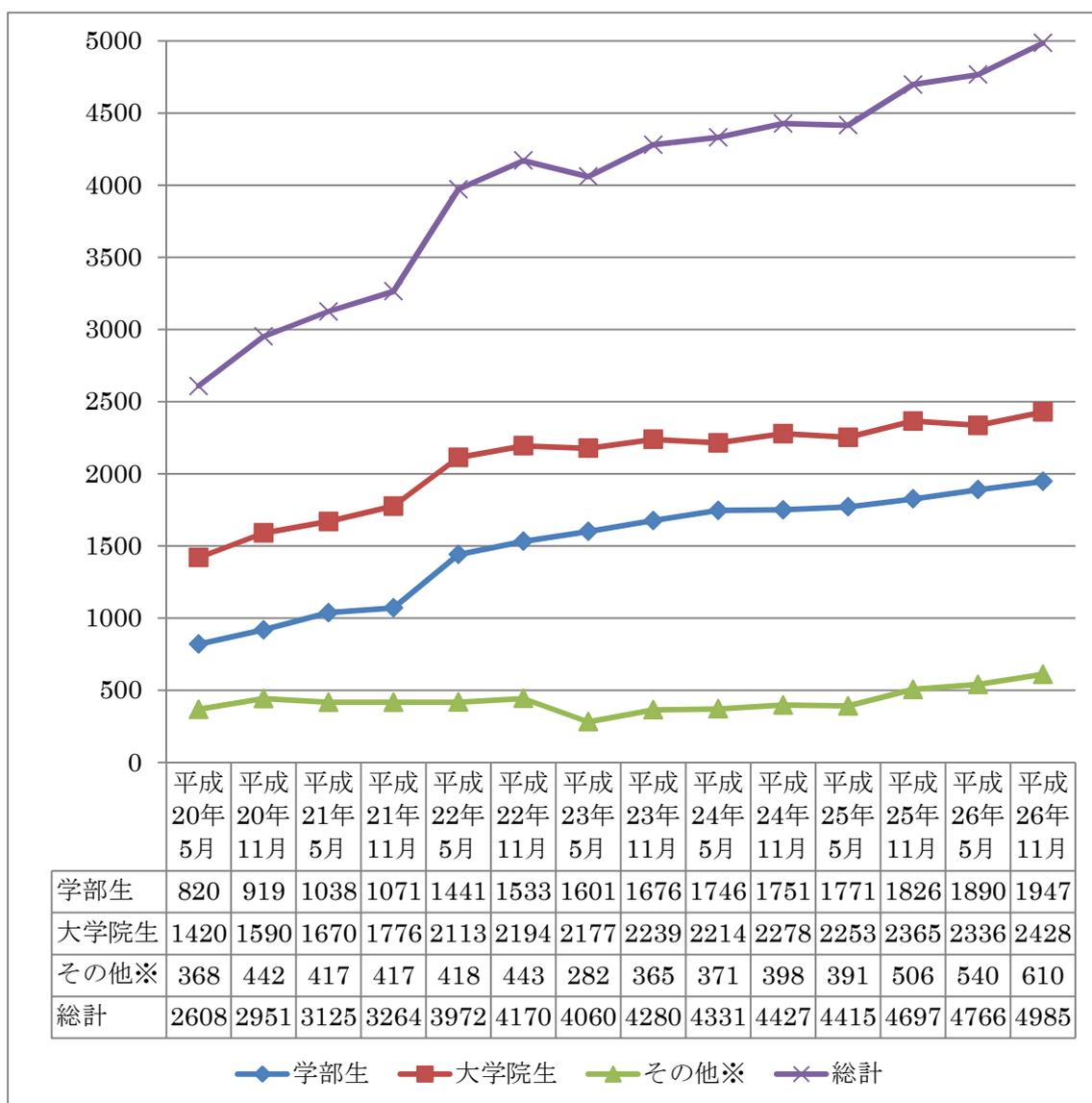
- ・入学センター内に「入試開発オフィス」・「入学者選抜オフィス」・「入試開発検討会」を新設した。**資料 1**
- ・Waseda Vision 150 が掲げる数値目標の具体化に向けた国際化の取り組みに優先的に着手している。**資料 2** **資料 3** **資料 4**
（参考：外国人学生 2032 年度に 10,000 名（全学生の 20%）を目標）
- ・「入試開発オフィス」が発案し、「入試開発検討会」における議論をし、学内の意思決定手続を経て具体化し、「入学者選抜オフィス」が候補者選抜を実施するというプロセスが回り始めた。今後、入学者については追跡調査を行い評価するという PDCA サイクルを確立することを目標としている。
- ※このスキームにより、「ミャンマー連邦共和国限定 特別奨学金 AO 入学試験」を発足させ、2014（平成 26）年 9 月に初めての入学者を迎え入れた。**資料 5**

以上



※網掛け部分が新設の機能

外国学生の推移（2008（平成20）年～2014（平成26）年）



※「その他」に分類されるプログラム等

- ・日本語別科（2013（平成25）年度前期で廃止され、日本語教育コース（1年、半年、3か月など様々なコースを設置）となった）
- ・国際教養1年プログラム

学部 外国学生関係入試一覧

1. 通常の過程(日本語プログラム)

1) 外国学生入試(渡日を要する入試)

学部	入学時期	選考方法	備考	入学定員
政治経済学部	4月	学部独自方式+日本留学試験	・小論文+面接 ・TOEFLスコア提出必須	若干名
法学部		共通試験+日本留学試験	・面接有	
教育学部			・面接有(学科、専修によっては面接無し)	
商学部	4月・9月		・TOEFLスコア提出必須	
社会科学学部	4月	学部独自方式+日本留学試験	・面接有 ・TOEFLスコア提出必須	
人間科学学部		共通試験+日本留学試験	・面接有	
スポーツ科学部		学部独自方式+日本留学試験	・面接有 ・TOEFLスコア提出必須	
文化構想学部		共通試験+日本留学試験	・面接有	
文学部			・面接有	
基幹理工学部			・面接有	
創造理工学部			・面接有	
先進理工学部			・面接有	

2015(平成27)年度入試まで「日本留学試験の受験必須」となっていたが、2016(平成28)年度入試より「日本留学試験の受験、もしくは日本語能力試験スコアカードの提出」に緩和された。

※ 日本留学試験は国外では16か国・地域でしか実施されていない。対して日本語能力試験は60か国・地域で実施されている。

2) 渡日前入試(渡日を要さない入試)

学部	入学時期	選考方法	備考	入学定員
政治経済学部	4月	日本留学試験結果による書類選考	TOEFLスコア提出必須	若干名
人間科学部			TOEFLもしくはTOEICスコアカード提出必須	
スポーツ科学部			TOEFLスコア提出必須	

2015(平成27)年度入試まで「日本留学試験のみでの選考」となっていたが、2016(平成28)年度入試より「SATやIBなど外国語による学力試験+日本語能力試験スコア」でも受験可能となった。

3) 中国指定校推薦入試（渡日を要さない入試）9校

学部	入学時期	選考方法
政治経済学部、法学部、商学部、社会科学部、人間科学部、スポーツ科学部、創造理工学部、先進理工学部	4月*	書類選考 エッセイ審査 面接

※商は9月入学も選択可能

4) 韓国指定校推薦入試（渡日を要さない入試）13校

学部	入学時期	選考方法
政治経済学部、商学部、社会科学部、人間科学部、スポーツ科学部、文化構想学部、文学部	4月*	書類選考 エッセイ審査 面接

※商は9月入学も選択可能

5) 政治経済学部 総合選抜入試（渡日を要する入試）

学部	入学時期	選考方法	備考	入学定員
政治経済学部	4月	書類選考+論文審査+面接	TOEFLスコア提出必須	50名

※一条校卒業(卒業見込者)と併せて募集

6) 一般入試（渡日を要する入試）

海外教育制度で12年の課程を修了した者にも出願資格はある。

2. 英語による学位プログラム（渡日を要さない入試）

英語による学位プログラムの入学試験については全て渡日を要することなく受験が可能となっており、国外からの志願者も受験しやすい環境となっている。

1) AO方式入試

学部	学科	入学時期	選考方式	入学定員 (2015（平成27年度）)
政治経済学部	政治学科、経済学科、国際政治経済学科	9月	AO方式 ^{※1}	85
社会科学部	—	9月	AO方式	20
国際教養学部	—	4月	AO国外選考 ^{※2}	100
	—	9月	AO方式 ^{※1}	125
基幹理工学部 ^{※3}	数学科、応用数理学科、電子物理システム学科、情報理工学科、情報通信学科、表現工学科	9月	AO方式 ^{※1}	35
創造理工学部	総合機械工学科、社会環境工学科	9月	AO方式	25
先進理工学部	物理学科、応用物理学科、化学・生命化学科、応用化学科、生命医科学科、電気・情報生命工学科	9月	AO方式	15
入学定員計				405

※1：一条校卒業者(卒業見込者)の出願も可能

※2：国籍ではなく、修了した(もしくは修了見込)中等教育課程により、「国内選考(一条校卒業者・卒業見込者対象)」と「国外選考(外国学生対象)」に分かれる。本表では国外選考のみ記載。

※3：学系別の募集。学科配属は2学年時となる。

2) 中国指定校入試 15校

学部	入学時期	選考方法
政治経済学部、社会科学部、国際教養学部、基幹理工学部、創造理工学部、先進理工学部	9月	書類選考、面接

3) 韓国指定校入試 13校

学部	入学時期	選考方法
政治経済学部、社会科学部、国際教養学部、基幹理工学部、創造理工学部、先進理工学部	9月	書類選考、面接
国際教養学部	4月	書類選考、面接

4) 台湾指定校入試 21校

学部	入学時期	選考方法
政治経済学部、社会科学部、国際教養学部、基幹理工学部、創造理工学部、先進理工学部	9月	書類選考、面接

以上

大学院 英語学位プログラム・外国学生関係入試一覧

1. 英語による学位プログラム実施研究科

- ・政治学研究科(修士課程・博士後期課程)
- ・経済学研究科(修士課程・博士後期課程)
- ・商学研究科(博士後期課程のみ)
- ・商学研究科ビジネス専攻(MBA)
- ・社会科学研究科(修士課程・博士後期課程)
- ・基幹理工学研究科(修士課程・博士後期課程)
- ・創造理工学研究科(修士課程・博士後期課程)
- ・先進理工学研究科(修士課程・博士後期課程)
- ・アジア太平洋研究科(修士課程・博士後期課程)
- ・情報生産システム研究科(修士課程・博士後期課程)
- ・環境エネルギー研究科(博士後期課程のみ)
- ・国際コミュニケーション研究科(修士課程・博士後期課程)
- ・人間科学研究科(博士後期課程のみ)

※一部例外もあるが、英語による学位プログラムについては「渡日を要さない入学試験」を実施しており、国外からの志願者が受験しやすい入試となっている。

大学院対象特別奨学生入試

- ・ミャンマー共和国対象特別奨学金入試
修士+博士後期課程の5年間が基本
100%大学財源で、学費免除および奨学金(月額11万円)が支給される。
- ・中国国家建設高水準大学公費派遣研究生受入制度
博士後期課程のみが対象
学費は大学負担で免除、奨学金は中国政府負担で支給される。
- ・サウジアラビア大使館推薦制度
修士および博士後期課程が対象
100%サウジアラビア政府負担で学費免除および奨学金が支給される。
- ・コソボ政府奨学生受入制度
博士後期課程のみ
学費は大学負担で免除、奨学金はコソボ政府負担で支給される。
- ・ベトナム政府奨学生受入制度
博士後期課程のみ
学費は大学負担で免除、奨学金はベトナム政府負担で支給される。

早稲田大学 大学院

ミャンマー連邦共和国限定 特別奨学金 AO 入学試験

奨学金の内容

- (1) 早稲田大学大学院修士課程および博士後期課程在籍中（最長 5 年間）の入学金、学費、諸会費を全額免除とする。※博士後期課程のみ在籍の場合は最長 3 年間
- (2) 生活費として、日本円にて毎月 8 万円を支給する（最長 5 年間）

募集課程： 修士課程・博士後期課程（5 年間）、または博士後期課程（3 年間）

募集人員： 2015 年 9 月入学者と 2016 年 4 月入学者を合わせて全学で数名程度

募集研究科： 早稲田大学が設置する文系・理系複数の研究科にて実施（詳細は入試要項参照）

使用言語： 日本語または英語（研究科によって異なる。詳細は入試要項を参照のこと）

申請資格： 以下の（1）～（3）をすべて満たす者

- (1) ミャンマー国籍を有し、出願時にミャンマー国内に居住している者
- (2) 以下のいずれかの学歴の要件を満たす者

修士課程・博士後期課程（5 年間）の場合

- ① ミャンマー国内における通常の課程による 15 年の学校教育を修了した者（※）
- ② ミャンマー国内または国外において、小学校～大学までの 15 年以上の課程を修了（または本学入学時まで修了見込）の者
- ③ 研究科による個別の学力審査により、大学を卒業したと同等以上の学力があると認められた者で、本学入学時まで 22 歳に達する者

※本学大学院修士課程に進学するためには、原則として、小学校～大学までの課程を「15 年以上修了」していることが必要です。ミャンマー国内の初等中等教育は 11 年間ですので、その後 3 年制の大学を卒業しただけでは「合計 14 年」となり、それのみでは出願することができません。

博士後期課程（3 年間）の場合

- ① ミャンマー国内または国外において、修士の学位またはこれに相当する学位を得た者、または本学入学時まで修了見込の者

- (3) 以下のいずれかの語学能力の要件を満たす者（※）

日本語プログラムの場合：日本語能力試験（JLPT）N1 級または N2 級以上取得者

英語プログラムの場合：TOEFL(iBT)90 点以上、TOEIC800 点以上、IELTS6.5 以上

※研究科により条件が異なります。詳細は入試要項を参照のこと。

募集日程:

2015年1月6日(火)~2月20日(金)	出願準備行為(研究指導教員との事前マッチング)
3月2日(月)~3月20日(金)	出願
4月上旬~中旬	1次選考(書類選考)
4月24日(金)	1次選考結果発表&2次選考案内
5月30日(土)	2次選考(論述試験、ディスカッション等)※ヤンゴンで実施
6月12日(金)	最終合格者発表
6月13日以降	入学手続 及び 在留資格申請手続等
2015年9月21日 / 2016年4月1日	入学

出願方法:

以下のウェブページから出願のための書類一式をダウンロード&出力のうえ、所定の出願期間内に書類を送付して出願してください。

[日本語] <http://web.waseda.jp/admission/ssp/myanmar/>

[英語] <http://web.waseda.jp/admission/en/ssp/myanmar/>

出願書類:

出願に必要な書類は、以下のようなものです。

- 入学志願票(所定用紙)
- 研究計画書(研究科により内容は異なる)
- 大学での卒業(修了)証明書とその翻訳文(英語か日本語)
- 大学での成績証明書とその翻訳文(英語か日本語)、
- 語学能力の証明書
 - 日本語プログラムの場合…JLPT N1
 - 英語プログラムの場合…TOEFL(PBT,iBT)、TOEIC、IELTS
- 志望理由書 ○推薦状 ○その他、各研究科が要求する書類等

選考方法:

1次選考:研究科による書類審査

2次選考:論述試験 及び 面接試験 ※2次選考は、ヤンゴン市内のホテル等で実施いたします。

問い合わせ先:

早稲田大学 国際アドミッションズ・オフィス

Email: iao-gs@list.waseda.jp (日本語、英語可) TEL: +81-3-3204-9073